



インストール

- [インストールの概要](#) (1 ページ)
- [1GE および 10/25GE スイッチの設定に適用されます。](#) (3 ページ)
- [1GE スイッチの設定に適用](#) (7 ページ)
- [10/25GE スイッチの設定に適用](#) (14 ページ)
- [HX Connect へのログイン](#) (18 ページ)

インストールの概要



- (注) 以前に HyperFlex クラスタノードが他の HyperFlex クラスタの一部であった場合（または工場出荷前の場合）、クラスタの導入を開始する前にノードのクリーンアップ手順を実行します。詳細については、『[HyperFlex Customer Cleanup Guides for FI and Edge](#)』を参照してください。

Edge 導入のためのインストール ワークフローの概要を示す次の表を参照してください。手順 1～3 は、1 GE と 10/25GE の展開で共通です。ただし、手順 4 は 1GE の展開に適用され、残りの手順 5～6 は 10/25 GE の展開に適用されます。

手順	説明	参考資料	1GE および 10/25GE、1GE、または 10/25GE に適用可能
1	インストール前のチェックリストに記入します。	<p>スイッチの設定に基づいて、以下から選択します。</p> <p>2 ノードエッジの展開:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10 または 25GE VIC ベースのトポロジ または、 • 1 ギガビット イーサネット トポロジ <p>3 および 4 ノードエッジの展開:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10 または 25GE VIC ベースのトポロジ または、 • 1 ギガビット イーサネット トポロジ 	1GE および 10/25GE
2	インストールの前提条件を準備します。	<ul style="list-style-type: none"> • ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード (3 ページ) • Cisco Integrated Management Controller の構成 (3 ページ) • ファームウェア バージョンの確認 (5 ページ) 	1GE および 10/25GE
3	Cisco HX Data Platform インストーラをダウンロードして導入します。	Cisco HX Data Platform インストーラの導入 (6 ページ)	1GE および 10/25GE
4	HyperFlex Edge クラスタを展開します。	<p>次の手順を実行して Edge クラスタを設定し、インストールが成功したことを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HyperFlex クラスタの設定 (7 ページ) • Cisco HX Data Platform ソフトウェア インストールの確認 (14 ページ) 	1GE のみ

手順	説明	参考資料	1GE および 10/25GE、1GE、または 10/25GE に適用可能
[6]	HyperFlex Edge クラスタを展開します。	(10/25GE のみ) HyperFlex クラスタの設定 (14 ページ)	10/25GE のみ

1GE および 10/25GE スイッチの設定に適用されます。

ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード

Cisco HX220c M5/M6、HX240c M5/6 と HX225/245c M6 HyperFlex ノードの詳細については、『[Cisco ハードウェア インストール ガイド](#)』を参照してください。



重要 CIMC 構成のために、コンソール ドングルを使用して VGA モニタとキーボードを接続できます。また、サーバの背面で VGA および USB ポートを直接接続することもできます。あるいは、ネットワーク内で DHCP サーバを使用できる場合は、CIMC の Lights-Out 構成を行うこともできます。

Cisco Integrated Management Controller の構成

CIMC ネットワークを構成する方法として、静的（スタティック）割り当てまたは DHCP 割り当てのいずれかを選択します。

CIMC の構成：静的割り当て

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) を構成するには、CIMC スタンドアロンモードを有効にし、CIMC パスワードと設定を構成し、KVM を使用して手動で静的 IP アドレスを構成する必要があります。それには、モニタとキーボードを備えた各サーバに物理的にアクセスできる必要があります。一度に 1 台ずつサーバを構成する必要があります。

アウトオブバンド用途では専用 CIMC 管理ポートを使用することもできます。ユーザーはアップストリーム スイッチの設定を計画する際は、この 3 番目の 1GE ポートを考慮する必要があります。さらに、CIMC の構成中は、CIMC を専用モードに設定する必要があります。専用 NIC モードにおける CIMC の構成の詳細については、[Cisco UCS C シリーズのドキュメンテーション](#)を参照してください。[NIC プロパティ (NIC properties)] の下で、NIC モードを [専用 (dedicated)] に設定してから構成を保存します。

始める前に

- 展開に適用されるこのガイドの「物理的なケーブル接続」の項の説明に従って、すべてのイーサネット ケーブルが接続されていることを確認します。
- サーバに VGA ドングルを接続し、モニタと USB キーボードを接続します。

ステップ 1 サーバの電源を入れ、画面に Cisco ロゴが表示されるまで待ちます。

ステップ 2 プロンプトが表示されたら、**F8** キーを押して、**Cisco IMC Configuration** ユーティリティを起動します。

ステップ 3 **[CIMC ユーザの詳細 (CIMC User Details)]** で、**password** と、**[現在の CIMC パスワード (current CIMC password)]** に入力し、**新しい CIMC パスワード** を 2 回入力してから **Enter** キーを押して新しいパスワードを保存します。

重要 システムには、インストール時に変更する必要があるデフォルトパスワード *Cisco123* が付属しています。新しいユーザ指定のパスワードを指定しない限り、インストールを続行することはできません。

ステップ 4 **[IP (基本) (IP (Basic))]** で、**[IPv4]** をオンにし、**[DHCP を使う (DHCP Enabled)]** をオフにして、**[CIMC IP]**、**[プレフィックス/サブネット (Prefix/Subnet)]** マスク、**[ゲートウェイ (Gateway)]** に値を入力します

ステップ 5 **[VLAN (詳細設定) (VLAN (Advanced))]** で、**[VLAN を使う (VLAN enabled)]** をオンにして、次の操作を行います。

- トランク ポートを使用する場合は、適切な **[VLAN ID]** を設定します。
- アクセス ポートを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。

ステップ 6 他の設定はデフォルトのままにして、**F10** キーを押して構成を保存し、**ESC** キーを押してユーティリティを終了します。

ステップ 7 Web ブラウザで、CIMC ページ (<https://CIMC IP アドレス>) に直接移動します。

ステップ 8 ユーザ名 **admin** と新しい CIMC パスワードを入力し、**[ログイン (Log In)]** をクリックします。

ステップ 9 **[サーバ (Server)]** > **[電源ポリシー (Power Policies)]** に移動して、目的の動作と一致する電源ポリシーを手動で設定します。

サーバはデフォルトで、電力復元ポリシーを工場出荷時の設定 **[電源オフ (Power Off)]** に設定します。

次のタスク

仮想 KVM コンソールを使用することも、物理 KVM を引き続き使用することもできます。SD カードには工場出荷時に ESXi がプリインストールされているので、インストール時に自動的に起動します。

CIMC の構成 : DHCP 割り当て

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) を構成するには、CIMC スタンドアロンモードを有効にし、CIMC パスワードと設定を構成し、DHCP から取得した動的 IP アドレスを構成する必要があります。この場合、ネットワークの設定作業が増えますが、HyperFlex Edge ノードの Lights-Out セットアップを有効にすることで構成が容易になります。すべてのサーバが同時に自動的にアドレスをリースするため、導入時間が短縮されます。

始める前に

- 展開に適用されるこのガイドの「物理的なケーブル接続」の項の説明に従って、すべてのイーサネット ケーブルが接続されていることを確認します。
- DHCP サーバが有効なスコープで構成されて稼働していることを確認します。
- DHCP サーバが管理 VLAN で直接リッスンしているか、スイッチ上に IP ヘルパーが構成されていることを確認します。
- インバンド CIMC とアウトオブバンド CIMC のどちらを使用するかを決定します。
 - インバンド CIMC を使用する場合、すべての HyperFlex Edge スイッチ ポートに対応するネイティブ VLAN が正しい DHCP VLAN とマッチするように構成します。CIMC が自動的にアドレスをリースできるようにするには、これが唯一の方法です。
 - アウトオブバンド CIMC を使用する場合、DHCP VLAN 上にアクセスモード専用のスイッチ ポートを構成します。

ステップ 1 電源ケーブルを接続します。

ステップ 2 DHCP ログまたはリース テーブルにアクセスして、取得した CIMC アドレスを確認します。

ステップ 3 C220-**<S/N>** のホスト名を検索して HyperFlex サーバを見つけ、HX Data Platform Installer に入力する必要があるアドレスをメモします。

次のタスク

DHCP を使用する場合、HX Data Platform のインストールを開始する前に手動でユーザ定義 CIMC パスワードを設定する必要があります。Web UI または CLI セッションのいずれかを使用して、新しいパスワードを設定します。デフォルトのパスワード **password** を変更する必要があります。そうしない場合、インストールが失敗します。

ファームウェア バージョンの確認

現在の BIOS、CIMC、SAS HBA、およびドライブのファームウェア バージョンを表示して、それらのバージョンが、リリース ノートのデータと一致していることを確認します。

-
- ステップ 1** お使いのブラウザで、<https://<CIMC IP>> に移動することにより、CIMC Web UI にログインします。
- ステップ 2** ナビゲーション ウィンドウで [サーバ (Server)] をクリックします。
- ステップ 3** [サーバ (Server)] ページで [概要 (Summary)] をクリックします。
- ステップ 4** [Cisco Integrated Management Controller (CIMC) 情報 (Cisco Integrated Management Controller (CIMC) Information)] セクション ([サーバの概要 (Server Summary)] ページ) で、[BIOS バージョン (BIOS Version)] と [CIMC ファームウェア バージョン (CIMC Firmware Version)] を検索してメモします。
- ステップ 5** CIMC で、[インベントリ (Inventory)] > [PCIe アダプタ (PCIe Adapters)] の順に移動し、[SAS HBA のバージョン (SAS HBA Version)] を見つけて値をメモします。
- ステップ 6** CIMC では、使用しているサーバーのタイプに応じて [ストレージ (Storage)] に移動し、以下のうちのいずれかに移動してください。
- M5 および M6 の場合、[Cisco 12G モジュラー SAS HBA (Cisco 12G Modular SAS HBA)] > [物理ドライブ情報 (Physical Drive Info)] に移動し、ドライブ タイプ、製造業者、およびファームウェア バージョンをメモしてください。
- ステップ 7** 現在の BIOS、CIMC、SAS HBA、およびドライブのファームウェア バージョンと、Cisco HyperFlex Edge とファームウェアの互換性マトリックスに記載されているバージョンを比較します。
- ステップ 8** 最小バージョンを満たしていない場合、互換性マトリックスの Host Update Utility (HUU) ダウンロードリンクを基に、システムで実行中のファームウェアのバージョン (Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 、PCI アダプタ、RAID コントローラ、ドライブ (HDD/SSD) ファームウェアを含む) をアップグレードします。Cisco HUU ユーザ ガイドの最新および以前のリリースは、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/products-user-guide-list.html> で確認できます。
-

Cisco HX Data Platform インストーラの導入

HX データプラットフォーム インストーラは、ESXi サーバと、VMware ワークステーション、VMware Fusion、または仮想ボックスに展開できます。HyperFlex ソフトウェアは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式の導入可能な仮想マシンとして配布されます。VMware vSphere (シック) クライアントを使用して HX Data Platform インストーラを展開するには、次の手順を使用します。

-
- ステップ 1** HX Data Platform インストーラ OVA を [Cisco.com](http://www.cisco.com) からダウンロードし、このパッケージをローカルに保存します。
- ダウンロードしたバージョンが、展開に推奨されるバージョンと一致することを確認します。
- ステップ 2** vSphere クライアントを使用して vCenter にログインします。
- ステップ 3** [ファイル (File)] > [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] の順に選択します。
- ステップ 4** [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] ウィザードの [送信元 (Source)] ページで、送信元の場所を指定し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ページで、情報を確認してから [次へ (Next)] をクリックします。

- ステップ 6 (任意) [名前と場所 (Name and Location)] ページで、仮想アプライアンスの名前と場所を編集し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7 [ホスト/クラスタ (Host/Cluster)] ページで、導入先のホストまたはクラスタを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8 [リソース プール (Resource Pool)] ページで、OVF テンプレートの実行場所となるリソース プールを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9 [ストレージ (Storage)] ページで、導入後の OVF テンプレートを保管するデータベースを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10 [ディスク フォーマット (Disk Format)] ページで、仮想マシンの仮想ディスクを保管するディスク フォーマットを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 11 [ネットワーク マッピング (Network Mapping)] ページで、OVF テンプレートで指定されているそれぞれのネットワークについて、[宛先ネットワーク (Destination Network)] 列を右クリックしてインフラストラクチャ内のネットワークを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 12 インストーラ VM の OVF プロパティとして、ホスト名、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバ、IP アドレス、およびサブネット マスクを指定します。
- あるいは、DHCP で割り当てられるアドレスを使用するには、すべての OVF プロパティを空白のままにします。
- ステップ 13 [準備完了 (Ready to Complete)] ページで、[展開後に電源をオン (Power On After Deployment)] を選択し、[終了 (Finish)] をクリックします。

1GE スイッチの設定に適用

HyperFlex クラスタの設定

- ステップ 1 Web ブラウザで、インストーラ VM の IP アドレスを入力し、[承認 (Accept)] または [続行 (Continue)] をクリックして SSL 証明書エラーをバイパスします。
- ステップ 2 ログイン画面の右下隅にある [ビルド ID (Build ID)] で HyperFlex インストーラのビルド ID を確認します。
- ステップ 3 ユーザー名 **root** とパスワード **Cisco123** を使用して Cisco HX Data Platform にログインします。
- 重要** システムに同梱されているデフォルトのパスワード *Cisco123* は、インストール時に変更する必要があります。HyperFlex オンプレミス インストーラでは、導入の一部としてルート パスワードを変更する必要があります。新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。設定の手順のこの時点で、新しいパスワードを使用します。
- ステップ 4 エンドユーザ ライセンス契約書を読み、[利用規約に同意する (I accept terms and conditions)] をオンにしてから、[ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ 5 [Workflow (ワークフロー)] ページで、[HyperFlex によるクラスタ作成 (Cluster Creation with HyperFlex Edge)] をクリックします

ステップ 6 クラスタを作成するには、必要な構成データが格納された *JSON* コンフィギュレーション ファイル をインポートできます。JSON ファイルをインポートする場合は、次の2つのステップを行います。インポートしない場合は、必須フィールドに手動でデータを入力できます。

(注) 初回インストールの場合は、シスコの担当者に連絡して工場出荷時のプレインストール JSON ファイルを入手してください。

1. [ファイルの選択 (Select a file)] をクリックし、該当する *JSON* ファイルを選択して構成をロードします。[構成を使用 (Use Configuration)] を選択します。
2. インポートした Cisco UCS Manager の値が異なる場合は、[Overwrite Imported Values] ダイアログボックスが表示されます。[検出された値を使用 (Use Discovered Values)] を選択します。

ステップ 7 [クレデンシャル (Credentials)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

名前	説明 (Description)
Cisco IMC クレデンシャル	
Cisco IMC ユーザー名	Cisco IMC ユーザー名。ユーザー名のデフォルトは admin です。
パスワード	CIMC のパスワード。デフォルトのパスワードは password です。
vCenter クレデンシャル (vCenter Credentials)	
HyperFlex クラスタ サーバの設定	vCenter サーバの FQDN または IP アドレス。vCenter のルートレベル管理者権限があるアカウントを使用する必要があります。
ユーザ名	管理者ユーザ名。
[管理パスワード (Admin Password)]	管理者パスワード。
ハイパーバイザのクレデンシャル	
管理者ユーザ名	管理者ユーザ名。デフォルトのユーザ名は root です。
ハイパーバイザ パスワード	デフォルトのパスワードは Cisco123 です。 重要 システムに同梱されているデフォルトのパスワード <i>Cisco123</i> は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

次のスクリーンショットを参照して、このページのフィールドに入力してください。

ステップ 8 [IP Addresses] ページで、サーバごとに割り当てられたアドレスを入力します。

名前	説明 (Description)
Cisco IMC	Cisco IMC の IP アドレス
ハイパーバイザ	ハイパーバイザの管理 IP
ストレージ コントローラ	ストレージ コントローラの管理 IP
クラスタの IP アドレス	クラスタ管理 IP アドレス
サブネット マスク	クラスタ管理のサブネットマスク
ゲートウェイ	クラスタ管理 IP のゲートウェイ IP アドレス

次のスクリーンショットを参照して、このページのフィールドに入力してください。

ステップ 9 [クラスタ構成 (Cluster Configuration)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

(注) プリインストール ワークシートを使用して、すべてのフィールドに値を入力します。

名前	説明 (Description)
Cisco HX クラスタ	
クラスタ名	HyperFlex ストレージクラスタの名前 (ユーザが指定した名前)。
レプリケーション ファクタ	
コントローラ VM	
管理者パスワードの作成	コントローラ VM のデフォルトパスワードはありません。ユーザーはこのフィールドを設定する必要があります
管理者パスワードの確認	管理者パスワードを再入力して確認します。
vCenter の設定	
vCenter データセンター名	HyperFlex ホストが追加された vCenter データセンターの名前。
vCenter Cluster Name	HyperFlex ホストが追加された vCenter クラスタの名前。

名前	説明 (Description)
システムサービス	
[DNS サーバ (DNS Server(s))]	各 DNS サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。
NTP サーバ	各 NTP サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。 重要 信頼性の高い NTP サーバが必要です。
[タイムゾーン (Time Zone)]	コントローラ VM のローカル タイムゾーン。
コネクテッド サービス	
[Enable Connected Services] (推奨)	オンにして、接続サービスを有効にします。 (注) 接続サービスを有効にして Cisco TAC にメールアラートを送信できるようにすることを強く推奨します。
サービス チケット通知の送信先: 例: <i>admin@cisco.com</i>	サービス要求通知を受信する電子メールアドレス。
詳細ネットワーク	
管理 VLAN タグ データ VLAN タグ	トランク ポートを使用する場合は、適切な VLAN タグを入力します。トランクモードを使用する場合は、VLAN タグが異なる必要があります。 アクセス ポートを使用している場合は、両方の VLAN タグに 0 を入力します。 (注) トランク ポートを使用している場合は、 0 を入力しないでください。
管理 vSwitch データ vSwitch	自動入力された vSwitch 名を変更しないでください。
Advanced Configuration	
データネットワーク上のジャンボフレームを有効化	このチェックボックスをオフにして、HyperFlex Edge 展開で標準サイズの packets が使用されるようにする必要があります。ネットワーク構成によっては、必要に応じて 10/25GE 展開のジャンボフレームを有効にすることができます。導入を容易にするため、このオプションをオフにすることをお勧めします。

名前	説明 (Description)
ディスクパーティションのクリーンアップ	既存のすべてのデータとパーティションをHXストレージクラスタから削除する場合は、このチェックボックスをオンにします。たとえば、クラスタにこのソフトウェアをインストールするのは初めてではない場合、このチェックボックスをオンにします。
[VDI のみの展開用に最適化 (Optimize for VDi only deployment)]	VDI展開を最適化する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、HyperFlexは仮想サーバインフラストラクチャ (VSI) 用にパフォーマンスが最適化されています。VDI展開の場合にパフォーマンスパラメータを調整するには、このボックスをオンにします。このオプションは、オールフラッシュHXモデルには影響しません。ハイブリッドHXクラスタでのみ有効にする必要があります。VDIとVSIが混在するワークロードを実行している場合は、このオプションを選択しないでください。
vCenter Single-Sign-On Server	このフィールドには、Cisco TACから指示があった場合にのみ値を入力してください。

次のスクリーンショットを参照して、このページのフィールドに入力してください。

HyperFlex Installer

?
?
?
?

Credentials
IP Addresses
Cluster Configuration

Cisco HX Cluster

Cluster Name

Replication Factor ⓘ

Controller VM

Create Admin Password

Confirm Admin Password

vCenter Configuration

vCenter Datacenter Name

vCenter Cluster Name

System Services

DNS Server(s)

NTP Server(s)

DNS Domain Name

Time Zone

 ⓘ

Connected Services

Connected Services

Enable Connected Services (Recommended) ⓘ

Send service ticket notifications to

Advanced Networking

Management VLAN Tag

Management vSwitch

Data VLAN Tag

Data vSwitch

Advanced Configuration

Jumbo Frames

Enable Jumbo Frames on Data Network ⓘ

Disk Partitions

Clean up disk partitions

Virtual Desktop (VDI)

Optimize for VDI only deployment

vCenter Single-Sign-On Server

Configuration

Credentials

vCenter Server 10.64.53.54

User Name administrator@vsphere.local

Cisco IMC User Name eng-f155.eng.com

Admin User name root

IP Addresses

Cluster Name EDGE_CLUSTER

Management Cluster 10.10.10.40

Management Subnet Mask 255.0.0.0

Management Gateway 10.10.10.1

Server 1

Management Cisco IMC 10.10.10.10

Management Hypervisor 10.10.10.20

Management Storage Controller 10.10.10.30

Server 2

Management Cisco IMC 10.10.10.11

< Back
Start

ステップ10 導入が完了すると、[導入の概要 (Summary Deployment)] ページに導入の詳細が要約されて表示されず。

次のタスク

HX Data Platform プラグインのインストールを確認します。「[Cisco HX Data Platform ソフトウェア インストールの確認 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco HX Data Platform ソフトウェア インストールの確認

ステップ1 vSphere を起動し、管理者として vCenter Server にログインします。

ステップ2 vCenter Inventory Lists で、Cisco HX Data Platform が表示されることを確認します。

Cisco HX Data Platform のエントリが表示されていない場合は、vCenter からログアウトしてブラウザを閉じ、再度ログインします。ほとんどの場合はこの操作で問題が解決します。

vCenter からログアウトしても問題が解決されない場合は、vCenter Web クライアントを再起動する必要があります。VCSA に SSH で接続し、`service vsphere-client restart` を実行します。Windows 対応の vCenter の場合、MMC のサービス ページで VMware vSphere Web クライアントを再起動します。

ステップ3 新しいクラスタがオンライン状態になっていて、登録済みであることを確認してください。

10/25GE スイッチの設定に適用

(10/25GE のみ) HyperFlex クラスタの設定

ステップ1 Web ブラウザで、インストーラ VM の IP アドレスを入力し、[承認 (Accept)] または [続行 (Continue)] をクリックして SSL 証明書エラーをバイパスします。

ステップ2 ログイン画面の右下隅にある [ビルド ID (Build ID)] で HyperFlex インストーラのビルド ID を確認します。

ステップ3 ユーザー名 **root** とパスワード **Cisco123** を使用して Cisco HX Data Platform にログインします。

重要 システムに同梱されているデフォルトのパスワード *Cisco123* は、インストール時に変更する必要があります。HyperFlex オンプレミス インストーラでは、導入の一部としてルート パスワードを変更する必要があります。新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。設定の手順のこの時点で、新しいパスワードを使用します。

ステップ4 エンド ユーザ ライセンス契約書を読み、[利用規約に同意する (I accept terms and conditions)] をオンにしてから、[ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ5 [Workflow (ワークフロー)] ページで、[HyperFlex によるクラスタ作成 (Cluster Creation with HyperFlex Edge)] をクリックします

ステップ6 [クレデンシャル (Credentials)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

名前	説明 (Description)
vCenter クレデンシャル	
vCenter Server	vCenter サーバの FQDN または IP アドレス。vCenter のルートレベル管理者権限があるアカウントを使用する必要があります。
ユーザ名	管理者ユーザ名。
[管理パスワード (Admin Password)]	管理者パスワード。
[CIMC クレデンシャル (CIMC Credentials)]	
[CIMC ユーザ名 (CIMC User Name)]	CIMC のユーザ名。ユーザー名のデフォルトは admin です。
パスワード	CIMC のパスワード。デフォルトのパスワードは password です。
ハイパーバイザのクレデンシャル	
管理者ユーザ名	管理者ユーザ名。デフォルトのユーザ名は root です。
[管理パスワード (Admin Password)]	デフォルトのパスワードは Cisco123 です。 重要 システムに同梱されているデフォルトのパスワード Cisco123 は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

ステップ7 [IP アドレス (IP Addresses)] ページで、サーバごとに割り当てられたアドレスを入力します。

名前	説明 (Description)
Cisco IMC	Cisco IMC の IP アドレス
ハイパーバイザ	ハイパーバイザの管理 IP
ストレージコントローラ	ストレージコントローラの管理 IP
クラスタの IP アドレス	クラスタ管理 IP アドレス

名前	説明 (Description)
サブネット マスク	クラスタ管理のサブネットマスク
ゲートウェイ	クラスタ管理 IP のゲートウェイ IP アドレス

ステップ 8 [クラスタ構成 (Cluster Configuration)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

(注) プリインストール ワークシートを使用して、すべてのフィールドに値を入力します。

名前	説明 (Description)
Cisco HX クラスタ	
クラスタ名	HyperFlex ストレージクラスタの名前 (ユーザが指定した名前)。
レプリケーション ファクタ	
コントローラ VM	
管理者パスワードの作成	デフォルトのパスワードは Cisco123 です。 重要 システムに同梱されているデフォルトのパスワード <i>Cisco123</i> は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。
管理者パスワードの確認	管理者パスワードを再入力して確認します。
vCenter の設定	
vCenter データセンター名	HyperFlex ホストが追加された vCenter データセンターの名前。
vCenter Cluster Name	HyperFlex ホストが追加された vCenter クラスタの名前。
システムサービス	
[DNS サーバ (DNS Server(s))]	各 DNS サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。
NTP サーバ	各 NTP サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。 重要 信頼性の高い NTP サーバが必要です。

名前	説明 (Description)
[タイムゾーン (Time Zone)]	コントローラ VM のローカルタイムゾーン。
自動サポート	
自動サポートを有効にします (推奨)。	自動サポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 (注) 自動サポートを有効にして、メールアドレスを Cisco TAC に送信できるようにすることを強くお勧めします。
サービスチケット通知をに送信します (例: name@company.com)。	サービス リクエスト通知を受信するメールアドレス。

ステップ 9 [クラスタ構成の詳細設定 (Advanced Cluster Configuration)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[開始 (Start)] をクリックします。

名前	説明 (Description)
詳細ネットワーク	
アップリンク スイッチの速度	10/25GE のラジオ ボタンをオンにします。[MAC アドレス プレフィックス (MAC Address Prefix)] フィールドが表示されます。MAC アドレス プレフィックスを設定します。 (注) MAC アドレスプレフィックスは、Cisco VIC の仮想インターフェイスに一意の MAC アドレスを割り当てるために使用されます。既存のネットワーク機器と重複しないように、一意の範囲を選択してください。
管理 VLAN タグ データ VLAN タグ	トランク ポートを使用する場合は、適切な VLAN タグを入力します。トランクモードを使用する場合は、VLAN タグが異なる必要があります。 アクセス ポートを使用している場合は、両方の VLAN タグに 0 を入力します。 (注) トランク ポートを使用している場合は、 0 を入力しないでください。
管理 vSwitch データ vSwitch	自動入力された vSwitch 名を変更しないでください。
詳細設定	

名前	説明 (Description)
データネットワーク上のジャンボフレームを有効化	10/25G展開のジャンボフレームを有効にするには、チェックを付けます。
ディスクパーティションのクリーンアップ	既存のすべてのデータとパーティションをHXストレージクラスタから削除する場合は、このチェックボックスをオンにします。たとえば、クラスタにこのソフトウェアをインストールするのは初めてではない場合、このチェックボックスをオンにします。
[VDI みの展開用に最適化 (Optimize for VDi only deployment)]	VDI展開を最適化する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、HyperFlexは仮想サーバインフラストラクチャ (VSI) 用にパフォーマンスが最適化されています。VDI展開の場合にパフォーマンスパラメータを調整するには、このボックスをオンにします。このオプションは、オールフラッシュHXモデルには影響しません。ハイブリッドHXクラスタでのみ有効にする必要があります。VDIとVSIが混在するワークロードを実行している場合は、このオプションを選択しないでください。
vCenter Single-Sign-On Server	このフィールドには、Cisco TACから指示があった場合にのみ値を入力してください。

[進捗状況 (Progress)] ページで、すべてのクラスタ構成タスクの進捗状況を確認します。導入が完了するまでには 20 ~ 45 分かかります。

ステップ 10 導入が完了すると、[導入の概要 (Summary Deployment)] ページに導入の詳細が要約されて表示されません。

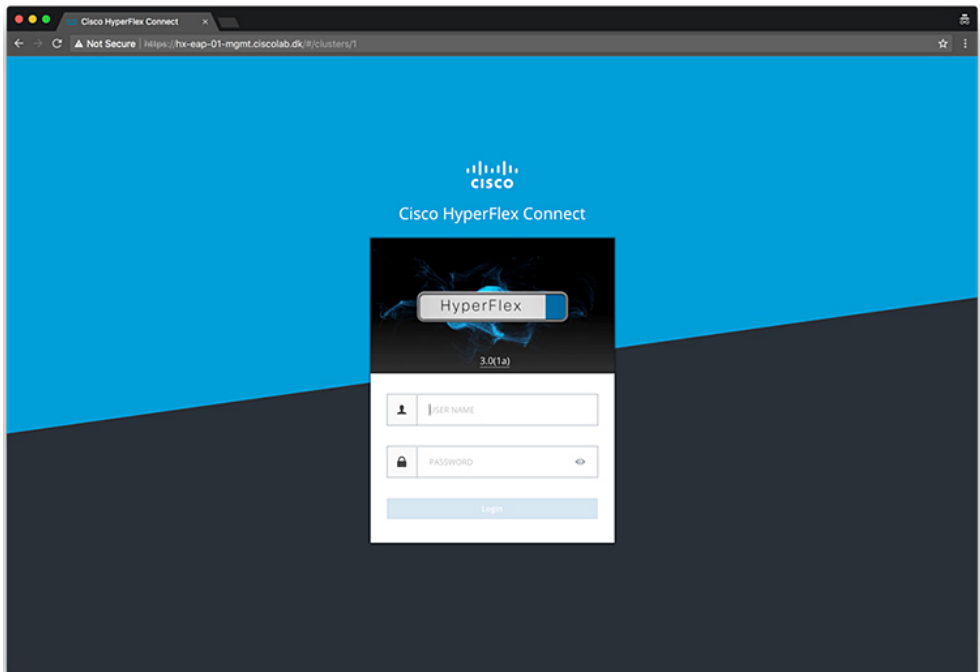
次のタスク

HX Data Platform プラグインのインストールを確認します。

HX Connect へのログイン

Cisco HyperFlex コネクトは、HX ストレージのモニタリング、およびレプリケーション、暗号化、データストア、および仮想マシンのタスクに対し、HTML5 ベースのアクセスを提供します。この手順では、HX Connect の起動およびログインの概要を説明します。HX Connect へのログイン手順の詳細については、『[Cisco HyperFlex データ プラットフォーム管理者ガイド](#)』を参照してください。

ステップ1 任意のブラウザで `https://Cluster_IP/` または `https://FQDN` にアクセスして、HX Connect UI を起動します。



ステップ2 次のクレデンシャルでログインします。

- ユーザ名 : **admin**
- パスワード : クラスタのインストール中に設定されたパスワードを使用します。

次のタスク

HyperFlex クラスタが実稼働で使用できるようになる前に、インストール後のスクリプトを実行します。1GEと10/25GEのどちらのスイッチ設定を実行しているかに応じて、次を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。